自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に沿ったケア・サービスを実践している。一部管理者と職員で理念を共有出来ていることもある		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないが、散歩時で出会った時は挨拶をしたり、地域の祭りに参加したり近くの保育所の子供達との交流があった		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会や見学・相談があった際には認知症ケアの専門職としての知識を活かした助言を行うこともある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容や行政・他のサービス機関からの助言なども全職員に議事録を回覧しサービスの向上に繋がるように努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて定期的にホームの実情を報告している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族の了解を得、本人が臥床時に他者が入室しないよう強く希望された時のみ居室の施錠対応をとることもあるが極力施錠しないよう、本人に安心の声掛けや他者の対応やケアを実施している。		

京都府　グループホーム長岡京 （3階）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は少ないが虐待のないケアと馬鹿げている態度や不適切な関わりがあれば管理者・リーダーより注意するよう努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については全スタッフに活用状況など申し送りし実際どのように制度を利用しているか把握している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者にはできでいないが家族には出来ている		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は月に一度の介護相談員との関わりにより要望・意見を外部に表せる機会がある。御家族には面会時に話をゆっくり行ったり意見箱を設置している		
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一部の職員は意見を発言できてもシフトの関係上ユニット会議に参加しない職員は直接発言をする機会がなく会議参加は全員ではないので不公平であるが、ユニット会議にての提案や意見をフロア会議で述べユニット会議に参加スタッフが代表で発言をす		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在の利用者のレベルからして環境・条件の整備は難しいが把握はしていると思われる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り研修の参加を促しているがなかなか研修に参加できるだけの体制が整わず参加回数は少ない		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は乙訓グループホーム連絡会などで定期的に他の事業所との交流があるが他の職員にはあまり交流の場がない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の観察や申し送りにて情報を共有し必要なケアに向けて良い関係作りの為の努力は行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には様子を伝えたり以前の事を聞いたりコミュニケーションを多くとることで関係作りに努めているが全職員が実施てきているとは言い切れない状況である		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを確認しながら必要なサービスを見極めるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身体的・認知度的に重度の方が多く介護しているだけの対応となっている場面もある。暮らしを共にする者同士の関係は浅い		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアの上で常に家族と相談しながら本人に必要なサービスを見出し共に支え合う関係を作れるように努力をしているが、本人を支える視点や観点が職員・家族に相違がある場合は難しい場面もある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古い友人や親せきの方の面会もゆっくりと過ごしてもらえるよう対応しているが、来所される機会は少ない		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないよう座席の配置や馴染みの方同士が会話しやすいよう座席へ案内するなどし利用者間の関係性が深められるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後に臨機応変に対応を実施している		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の申し送りやケアプランの評価・見直しの会議にてその都度把握や検討に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や家族からの話・本人との話を基に生活歴などを把握しているが内容の度合いには個人差がある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察・スッタフ同士の情報交換・会議での話し合いなどにて現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実践できている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践できている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実践し努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護師との連携（医療連携加算）や折り紙教室・保育所（保護者会主体）との交流、自治会の祭りの参加・ハンドマッサージと利用可能な限り支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の入居以前のかかりつけ医や家族の要望に合わせて入居後のかかりつけ医を決めて頂いている。またかかりつけ医とは密に報告・相談・連絡を行い指示に沿った対応を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実践できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に備えての関係作りは行えていないが入・退院時には該当連携室担当者と事業所の方針や家族の意向を踏まえた希望を伝え早期退院が出来る様両者で情報交換などを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院や本人の状態の変化があった際に家族から事業所でどこまで対応可能なのかの相談を受けたり、事業所から本人の状況によって家族の終末への意向を確認する場合とある。事業所での看取りの対応について十分に説明を行ったうえで意向されれば家族・主治医・事業所の3者でカンファレンス		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが訓練は行えていない。実践力が全職員にあるとは言えない。管理者に指示を受け実践できている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・水害時の避難訓練は行っておらず身についていない。火災時の避難訓練は不定期であるが実施している。マニュアルは訓練により見直し箇所が必要と認識している		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周辺症状に対する声掛けが不適切な職員もおり全員が改善・見直しが必要である		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	臥床時や就寝時など本人にどうしたいか確認を行ったり、落ち着かれない時は言動や表情を考察し受容しつつ何を思われているのか探るように努めているが不十分な対応の時もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や臥床・就寝など職員の都合により決まっていることもあるが、本人の1日の生活リズムに出来るだけ沿うように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一部実施できていない日もあり常に支援できるように職員の意識改善が必要。実施できていないことに対して注意喚起は行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食洗機の設置により機会は減少したが、少量でも行ってもらうようにフロア会議で話し合い実践中		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の日々の摂取量を把握したうえで支援に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後は実践していないが他の食後は実施している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツが不要と思わる方には綿パンツへ変更を行っている。放尿が多い方は細目にトイレ介助を行うなどトイレでの介助に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については薬に頼っているのが現状。水分を十分に摂取できるよう介助や時間を設けたり、毎日体操介助を実施している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を表現できる方は希望通りの順番に介助を行っている。その他の方は希望に沿った対応とは言えないが午後から臥床したい方は午前浴の介助の実施などの対応は行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実践できている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の理解度は個人差があり完全に理解しているとは言い難い。誤薬やセットミスなど管理ミスが起きないよう二重チェック体制や服薬確認チェックも実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の残存能力に応じ家事を行って頂いたり、新聞を読むのが日課の方にはその時間があるなど食べる事・歌うこと等それぞれの好きなことが行えるように支援を心掛けている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い季節には散歩や買い物の支援を行っているが、身体的に重度の方が多く実践できていないことも多い。地域の人の協力は殆どなく		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が自己管理される支援は行っていないが入居時に現金が手元にないと不安な方などは居室に置かれているがお金という認識がなくカバンの中にしまいこんだままになっておられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状は殆どなく支援していないが、以前希望をされておられた時は支援を行っていた。また現状でも希望があれば支援は行う		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月カレンダーや装飾など季節感のあるものを取り入れている。障害物となるような物も置かないように心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーやエレベーターホールなどゆっくり過ごせるように椅子を設置し外を眺められたり、新聞を読んだり、家族と過ごせるように環境を整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談しながら家具の移動や必要な物など本人にとって安全な居室作りを行っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩の方でも障害にならないよう家具なども整備し、非常階段は扉を開けて直ぐに段差の為転落の危険リスクが高いため、センサーを設置し付き添い介助を行えるようにしている		